



## 中央橋の復旧工事が完了 3月28日から通行が再開されました



平成23年9月に、台風12号の影響で橋の一部が流失した市道山深瀬線（中央橋）の復旧工事が完了し、3月28日に通行が再開されました。4月8日には、新学期を迎えた児童が中央橋を渡って登校する姿も見られ、以前と変わらない日常が戻っています。

中央橋は、地元の皆さんにとってなくてはならない大切な生活道路であり、通学道路でもあります。緑の山々と那賀川の清流に溶け込んだ潜水橋のある風景は、周辺地域のみならず、本市にとっても大変貴重な財産で、市では一日も早い原形復旧をめざして工事を進めてきました。5月3日祝日には、中央橋付近で「第25回阿南の加茂谷鯉まつり」が行われます。

## 県・市・地元住民が協働で 遍路道に誘導サインと説明板を設置



4月16日、加茂町の一宿寺から四国霊場21番札所・太龍寺に通じる「かも道」(約4.4km)沿いに、市職員と地元住民20人が、太龍寺への方向と距離を示した誘導サイン13基と、歴史的な石造物など紹介した説明板5基を設置しました。山中の遍路道を安心して目的地まで歩いてもらおうと、県が製作した看板(縦15cm、幅40cm、高さ60cm)を、市が地元呼びかけて設置しました。作業に参加した森本隆一さん(68歳・加茂町)は、「これで安心して歩いてもらうことができます。説明板が『かも道』の魅力をいっそう引き立てています。」と話していました。今後、鶴林寺から太龍寺へ通じる「太龍寺道」にも看板を設置する予定です。

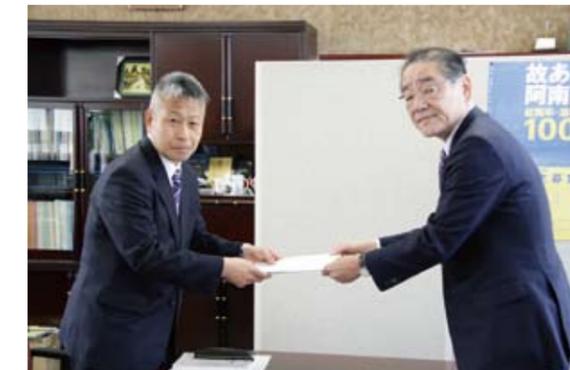
## 現庁舎の姿を絵画で残す 作品に込めた思いは「つながり」「温かみ」



市役所庁舎の建て替え工事に伴い、現庁舎の姿を描き残して後世に伝えようと、市が絵画の制作を委託していたイラストレーター・羽尻利門さん(32歳・見能林町)の作品が3月25日に完成し、市長公室で披露されました。

縦72.8cm、横103cmの大きなイラストボードには、市役所庁舎や庭木などが写実的に描かれ、歩道で老夫婦と親子がふれあう姿に親近感を覚える作品に仕上がっています。「子だくさんの家庭が増え、人と人とのつながりや温かみのある阿南市であってほしいという願いを込めました。」と羽尻さん。作品は市長公室に飾られ、新庁舎完成後には、市民の目に触れるところに飾られる予定です。

## 学科再編構想を進める阿南高専に 化学分野の技術者養成課程設置を要望



市は、学科再編構想を進める阿南工業高等専門学校に化学分野を専門とする技術者養成課程(化学コース)の設置を要望しました。

要望の内容は、市内に立地する化学系企業、LED関連企業等で活躍できる専門技術者の養成や、放置竹林問題等の環境改善を図るための、竹や木質材を活用した化学物質製品の商品化を支援することを目的としたものです。3月26日、岩浅市長は同校を訪れ、吉田靖校長に要望書を手渡しました。吉田校長は「市からの要望は大きな力になります。4月に創立50周年を迎えたことを弾みとして、ぜひ学科再編を実現させたいです。」と話していました。

## プロサーファーの武知実波さんに 「阿南ふるさと大使」を委嘱



本市は、プロサーファーとして世界の舞台で活躍している武知実波さん(19歳・桑野町)に、阿南市の魅力を広くPRしていただくこと「阿南ふるさと大使」を委嘱しました。本市が「阿南ふるさと大使」を委嘱するのは今回が初めてです。

3月29日、市長公室で委嘱状交付式が行われ、岩浅市長から武知さんに委嘱状と観光パンフレットが手渡されました。「世界ツアーに参戦した中学2年の頃から、阿南の海のすばらしさを実感するようになりました。こうしてプロサーファーになれたのも阿南の海のおかげ。世界中の人々に阿南市の魅力を伝えたいです。」と意気込みを語っていました。

## 橋保育所と橋幼稚園を統合した 認定こども園「橋こどもセンター」が完成



橋保育所と橋幼稚園を統合した認定こども園「橋こどもセンター」が完成し、3月30日に落成式が行われました。

「橋こどもセンター」は、橋保育所と橋幼稚園の名称はそのまま残し、センター内に両施設が共存する「幼保連携型認定こども園」として開設されました。受入定員は、0歳児から5歳児までの90人で、現在80人の園児が元気に登園しています。

同園は、橋小学校跡地に建設され、沿岸部からの距離が約300mと以前より遠くなり、南側斜面の急傾斜地崩壊対策も併せて講じられ、防災面の環境も改善されました。

## お土産にいかが! 伝統工芸×観光・文化の竹人形が完成



伝統工芸の技と阿南市の観光・文化を融合させた「野球活竹人形」と「活竹お遍路人形」が完成し、4月2日から阿南光のまちステーションプラザで発売されています。

この商品は、「野球観光ツアー」や「四国遍路」で本市を訪れる観光客向けに作られたお土産品で、竹人形づくりの後継者育成に取り組む阿南商工会議所が、阿南活竹人形職人会に製作を依頼しました。同会の久積國人さん(54歳・宝田町)は、「しなやかな投球フォームやバッターの迫力を表現するのが難しかった。」と試行錯誤の日々を振り返り、「今後は、道の駅などでも販売していきたいです。」と話していました。

## 開設1周年を祝して 徳島駐屯地で記念行事を開催



陸上自衛隊徳島駐屯地の開設1周年を記念した行事が3月20日に開催されました。同駐屯地で記念行事が一般公開されたのは今回が初めてで、約1,100人の人々が訪れ、普段は見られない陸上自衛隊ならではの催しを楽しみました。

なかでも、地雷原を処理して部隊を敵陣地に送り込む模擬戦闘訓練は迫力満点で、観測ヘリや戦車も導入して臨場感あふれる訓練が披露されました。親子で訓練を観覧した長尾浩明さん(52歳・那賀川町)は、「戦車の空砲の音がすごかった。国土防衛訓練に励む隊員の勇姿が見られてよかったです。開設1周年を迎え、これからも身近な駐屯地であってほしいです。」と話していました。